

2024年度第2四半期 会社説明会

<主なQ A>

Q. 今年度の業績予想を据え置いた理由は。通期予想を据え置く背景を教えてください。

A. 上期は、夏場の需要が非常に大きかったことや、その他の要素も順調に進捗したこともあり、堅調な結果となった。一方、下期は、上期に実施予定だった工事が下期へ後ろ倒しになっていることなどにより、上期よりは、利益が縮小すると見ており、年度予想としては、年初の経常利益3,600億円を据え置いている。

Q. 自己資本比率30%に近い将来見えてきているが、還元を考える上での一つのポイントになるのか。

A. 自己資本比率30%の達成を当面の目標と申し上げている。実現するとなれば、それを前提に、財務体質や配当を考えていくことになる。具体的に何を重視するのかは、議論中であり現時点で申し上げることはご容赦いただきたい。自己資本比率30%の達成に向けて少しずつ近づいてきており、しっかりと検討していかないといけないタイミングだと感じている。

Q. 中期経営計画の2025年度の目標は、既に達成が見込まれる状況。仮に、再来年春に次期中期経営計画を公表とすると、それまで変化が無いことになる。途中経過として、ROIC、ROAの改善に取り組み、目標を上回るような努力をしていて、成果が出ているなどを示してはどうか。次期中期経営計画公表よりも前にアクションがある可能性がある、次の成長が見えやすいと思う。

A. 先般、2035度の経常利益目標を6,000億円と掲げた。具体的な取り組みは社内でも議論を進めている。いつ頃何を出すかは、この場ではお示しできないが、課題意識をもって進めていることは認識いただきたい。

Q. 8月に元アカシア・リニューアブルズのデイヴィッド・ポヴァール氏を洋上風力の特任役員として採用している。2040年までに再エネ投資1兆円を目指す中で、洋上風力について、流れが変わったと受け止めているが、現在の状況を教えてください。

A. 第2ラウンド以降、入札条件も変更を重ねており、落ち着いてきたと思う。弊社としては、チャレンジをしているところであり、ケイパビリティを上げる手段として、デイヴィッド氏をお招きした。これらを含めてチャレンジしている段階であり、試行錯誤を続けていく。

以 上